

はこだてし おおふねえいちいせき
函館市 大船 H 遺跡 (登載番号 B-01-323)

所 在 地 : 函館市大船町599 - 1 , 600-2, 600-9

発掘原因 : 国道278号函館市尾札部道路建設工事

発掘面積 : 328m² (III層) , 280m² (V層)

発掘期間 : 令和2年9月14日～令和2年10月28日

調査主体 : 函館市教育委員会

調査実施 : 一般財団法人 道南歴史文化振興財団

担当者 : 函館市教育委員会 福田 裕二, 小林 貢

調査者 : (一財)道南歴史文化振興財団 坪井 瞳美, 荻野 幸男 (調査担当者)

調査の概要

遺跡は大船川支流のテッペイ川左岸、標高約50～60mの海岸段丘上に立地している。周辺には史跡大船遺跡や大船I・G・E遺跡が同じ段丘上に位置している(図1)。本遺跡は国道278号函館市尾札部道路建設工事に伴い平成30年度に3,950m²を調査し、令和元年度に調査報告書を刊行している。今回、テッペイ川のカルバート工事に係り新たに調査が必要となったことや、過去に調査した竪穴建物跡や土坑の一部が工事区域内に拡がりを確認したことから調査を実施した。今回の調査区は過年度調査区の南端、テッペイ川に面した台地縁辺部分の緩斜面である(図2)。

調査は縄文時代前期以降の遺物包含層(III層)と、駒ヶ岳火山灰[Ko-f・g](IV層)の下にある縄文時代早期の遺物包含層(V層)を発掘調査した。

III層で確認した遺構は、竪穴建物跡5軒(うち4軒は前回調査で確認)、竪穴状遺構3基(うち1基は前回調査で確認)、土坑52基(うち4基は前回調査で確認)、柱穴状土坑7基、焼土5か所、近代遺構1基である(図2)。遺構の多くは調査区南端、テッペイ川に面した段丘縁辺部に分布している。竪穴建物跡PD-1(榎林期)・PD-2とその周辺では、直径10mほどの範囲に過去の調査分も含め19基のプラスコ状土坑が集中している。竪穴建物跡と切り合う新旧の土坑があるが、坑底出土の土器片や分布状況から縄文中期の構築と考えられる。今回の調査区中央部に位置する竪穴建物跡PD-6は縄文時代前期の構築で、長軸約7m、短軸約4mの隅丸長方形を呈する。中期の2軒(PD-5・8)が重複し構築されている。PD-5・6・8の東側にはPD-6のものと考えられる掘り上げ土が広範囲にみられた。この掘り上げ土を掘り込んで構築された土坑が多くみられたほか、一部は掘り上げ土に覆われて検出している。今回の調査で新たに検出した竪穴建物跡PD-9は床面の長軸長が約1.7mと小型であるが、地床炉を備え柱穴は壁際に確認された。調査区東側では石皿や前期の土器が覆土から出土しているものもあり、これら遺構の多くは縄文時代前期・中期に属するものと考えられる。

III層の遺物は、縄文時代前期(円筒下層c・d式)・中期(サイベ沢V・VI式)・晩期の土器や石鏃、スクレイパー、石斧、敲石、擦石、石皿などの石器類を合わせて約2,000点が出土した。特に擦石類が多くみられ、扁平打製石器と北海道式石冠が合わせて100個以上出土している。

V層で確認した遺構は、土坑2基、柱穴状土坑1基である。遺物は剥片や礫など数点が出土した。遺物の分布は前回の調査で標高の高い部分から流れ込むようにしてみられたことから、縄文時代早期の遺跡の中心は今回の調査区から北西側へ離れた標高65m前後の緩斜面にあると考えられる。

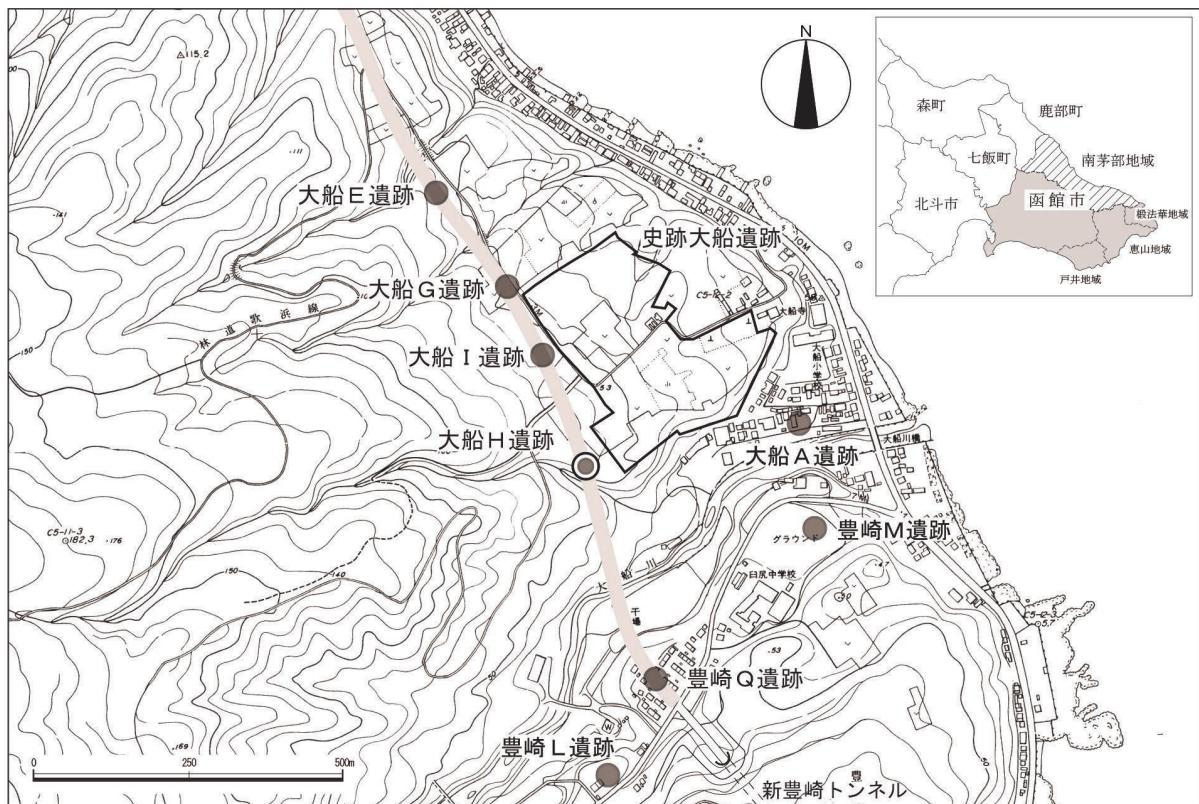


図1 遺跡の位置と周辺の遺跡

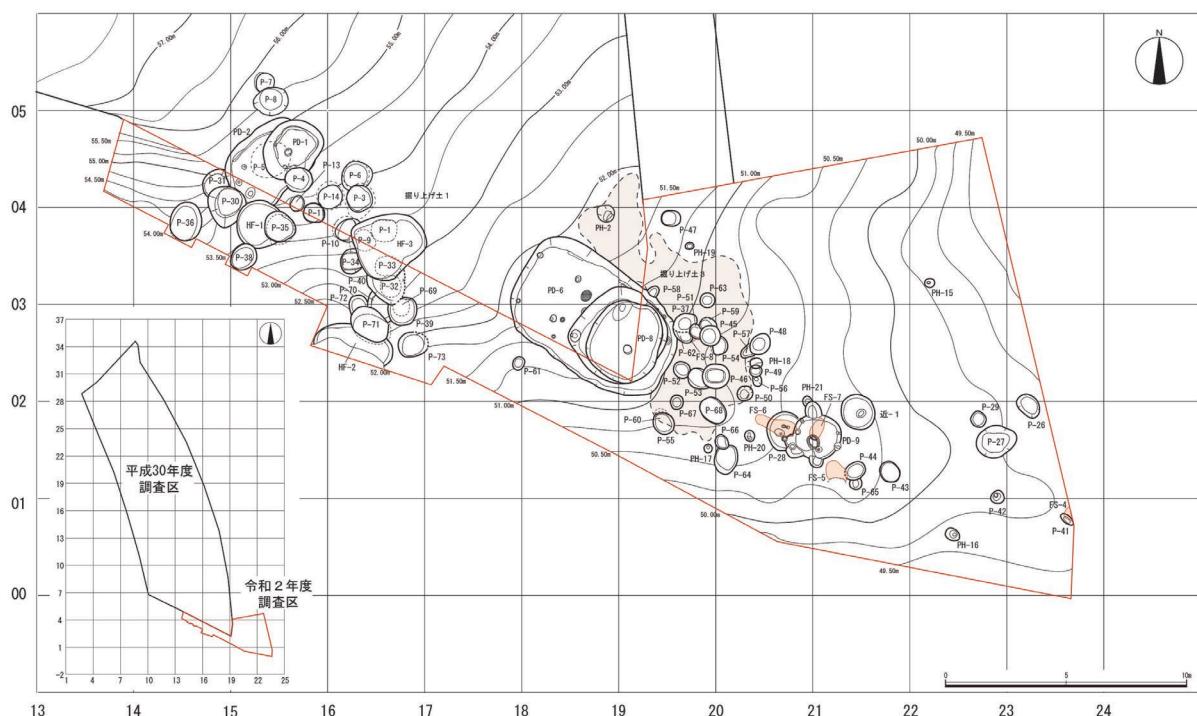


図2 遺構配置図（Ⅲ層）



遺跡周辺（北東から）



遺跡全景（東から）



III層完掘（写真上が北）



調査区全景（北西から）



調査区西側の土坑群完掘（北東から）



P D - 6 ・ 8 完掘 (北東から)



P D - 9 完掘 (南から)



P - 69 ・ 32 ・ 33 完掘 (東から)



P - 68 土層断面 (南東から)



P - 53 ・ 46 完掘 (南西から)



P - 26 覆土遺物出土状況 (南から)



土器出土状況 (円筒下層式)



V層完掘 (写真上が北)